

声(インタビュー)

今回の特集にあたり、荒砥高校卒業生や現役高校生に、学校生活の思い出や学校に対する思いなどについてインタビューさせていただきました。高校生活は3年間という短い期間ですが、子どもから大人に成長する大切な時期。そのような大切な時期をみなさんはどのように過ごされたのでしょうか？

インタビューをご覧いただき、皆さんも高校時代を思い出してみてください。



小関美幸さん  
平成13年度卒業  
・介護士として町内に勤務  
(十王在住)

月日が経つのは早いもので、私が荒砥高校を卒業して9年が経ちました。高校生活を振り返ってみると、さまざまな思い出があり、その中でも、ボランティアサークル「あさがお」の活動が特に印象に残っています。地域の皆さんとの交流を通し、人と人とのコミュニケーションの大切さを学ぶことができたからです。高校時代はまだ若く、分かりませんでした。卒業してからも交流の続いている友人や恩師の先生方と出会うことができ、荒砥高校に入学して良かったと思っています。そんな母校が、いつまでも稲荷台にあることを祈ります。



江口儀雄さん  
昭和40年度卒業  
・印刷業を営む  
(荒砥在住)

荒砥高校を卒業して45年。振り返ってみると、高校で学んだ3年間の私生活を決めたような気がしています。すでに画家、詩人、学者として評価されていた先生方がおられ、何気ない話の中に人間の知恵、学問あつての知識や哲学を感じ取ることができました。先生方の生き方に魅かれ、社会クラブで民俗調査、史跡めぐりの活動で地域の歴史の厚みのようなものを感じました。地域の歴史を書きとめた書物も少なく、また関心をもって地域を深く洞察するかたもいない。この「文化不毛の地」に活字が欲しい。自分の一冊を作りたい。そんな思いが印刷業となり、地域史や古文書の解説をしている自分がいます。

荒砥高校は開校して60余年、多くの人材を輩出し、町の発展に寄与してきました。白鷹町にとって高校の存在は大きく、これからの発展を期待している卒業生です。



菊地康紘くん  
荒砥高校3年  
・生徒会長を務める  
(浅立在住)

荒砥高校は今年、「団結」～挑戦し、向上しよう荒高生～というスローガンのもと活動しています。ボランティア活動をはじめとした地域貢献活動に力を入れることはもちろん、今年度は、町のふるさとCMづくりに参加させて頂くことになり、あらためていろんな角度から白鷹町を見つめなおし、よい作品を作るために活動を行っています。荒砥高校生の団結力を発揮できればと思います。

荒砥高校生は、仲間たちみんなが、楽しく明るい高校生活を送り青春を謳歌しています。

高校再編については、今年度検討結果が出されるといわれていますが、地元の荒砥高校存続のため、いま、町民全員が立ち上がり行動を起こしましょう。

8月29日(日)、「荒砥高校をサポートする町民大集会」が荒砥小学校体育館で開催されます。集会宣言などを行ったあと、山形市出身の女優・演出家である渡辺えりさんをお招きし、記念講演をいただきます。

入場は無料ですので、皆さんの参加をお待ちしています。

■問い合わせ 荒砥高校をサポートする会事務局(町教育委員会) ☎85-6144  
／総務課企画調整係 ☎85-6123